

西洋文化史概説 (2-51)

第一講 近代歴史学とは何か

神話から歴史を分離 (19世紀) : 古代史分野

ミュラー : ギリシア史

ニーブール : ローマ史

史料批判の方法を応用 (ルネサンス～宗教改革期に発展 : ロレンツォ・ヴァッラ)

内的批判 (史料内部の矛盾) と外的批判 (他史料との比較)

哲学から歴史を分離 : 近代史分野

ランケ : 近代史

啓蒙主義歴史学に対する批判

ヘーゲルの『歴史哲学』 : 理性の自己展開

オリエント : 一人のみ自由、

ギリシア・ローマ : 少数の市民のみ自由、

ゲルマン : 万人の自由

近代史重視に対する批判 : 「それぞれの時代は神に直結する」

教育システムとしての歴史学

大学・講座制・演習

神話の問題

神話は太古の記憶の残滓ではない

神話は後世の産物

ギリシア神話の多くは前 5 世紀の悲劇詩人の創作

神話の持つ機能

世界認識の道具 (説明装置)

未知の土地、未知の住民をギリシア神話と結びつけることで
合理化

ミダス王、ニオベ、タンタロスとフリュギア

アレクサンドロス大王と蔦の葉とディオニュソス

ローマ人は誰の子孫? (アイネイアスとディードー)

コロンブスとアメリカ現地住民（ハム・セム・ヤペテ？）

政治道具

ヘラクレイダイの帰還とドーリス人の侵入

ソロンとサラミス島とアイアス（ホメロス）

アマゾノマキア（アマゾン族との戦い）とアテナイ帝国

コドリダイとイオニア植民とアテナイ帝国

ペルセウスとペルシア戦争とアルゴス

ファビウス・ピクトル（前2世紀）とローマ古代史（ギリシ
界との関係構築）

『コンスタンティヌス寄進状』とローマ教皇権

ヒトラーとゴート人（ゲルマン人）

語られ、伝えられていく過程の問題

神話を伝える媒体の問題

プロパガンダとしての神話：クレオメネスの例、スキュロス島とペ
ラスゴイ人、

アテナイ帝国とテセウス

創作、修正、削除

宗教からの歴史の分離：啓蒙思想と歴史

デイドロ以前

天地創造紀元、トロヤ戦争紀元、ローマ建国紀元

歴史叙述のスタイル：世界史

天地創造・ユダヤの歴史・ギリシアの歴史・ローマの歴史

デイドロ

イエズス会士による司馬遷『史記』の紹介

ヨーロッパ・近東・南アジア・東アジア・南アジア・近東・ヨーロ
ッパ

非宗教的・歴史上の任意の中間点としての「キリスト起源」

近代歴史学に対する批判

外交史偏重

経済や文化無視、環境への無関心

解釈学

中産階級・プロテスタント

自由主義から保守主義へ

日本における「世界史」の問題

西洋史への東洋史の接合の産物としての「世界史」

歴史叙述のつぎはぎ、連続性の欠如

(レポート課題：イタリア史、フランス史、インド史、中国史の扱い)

背景としての近代化論（非合理主義・封建的後進性の克服・欧米を理想化）

市民革命、産業革命の評価

西洋文化史概説

レポート課題

学部	学年	学籍番号	名	前

手持ちの世界史教科書においてイタリア史、フランス史、インド史、中国史はそれぞれ何ページから何ページ、何ページから何ページ、というふう
に扱われているのか。

使用した教科書：

イタリア史：

フランス史：

インド史：

中国史：